

■ 仏光寺

五台山・仏光寺は1961年に国務院によって中国の重要文化財に指定されました。寺内には、北魏、北斉、唐、宋、金、明、清時代の建築や文化財が残されています。これは全国でも稀に見ることです。『古清涼伝』の記載によると、仏光寺は北魏の孝文帝の時に創建されて、すでに1500年の歴史があります。伝えるところによると、孝文帝がこの地を訪れた時にめでたい「仏の光」が射しているのを目撃し、以後このお寺を「仏光寺」と呼ぶようになりました。

中唐の時代に、この寺の規模は最大となり、三層七間、高さ32mの弥勒大閣が建ち、参拝者も多く、大変盛んでした。ところが、唐の武宗会昌5年(西暦845年)、道教を厚く信仰した武宗の廃仏令によって、寺の建物のすべてが打ち壊されてしまいました。やがて会昌年間の廃仏が終わり、大中11年(857年)寧公遇という一人の女性の寄進によって弥勒大閣の跡に現在の東大殿を建立したのです。そして東大殿は宋、金、明、清の時代にそれぞれ修復をして現在に至っています。

仏光寺には、貴重な文化財が多く残っています。建築としては、唐代の東大殿、宋時代の文殊殿。また唐の時代に作られた仏像、壁画、墨蹟があり、これらは仏光寺の「四絶」と言われています。それ故に



梁思成(ウィキペディアより)



857年に建立された東大殿(ウィキペディアより)

中国の歴史的文物の宝庫として内外に名を馳せています。

■ 梁思成¹⁾と仏光寺

仏光寺というと、その発見者の梁思成と妻の林徽因^{りん}を語らねばなりません。梁思成は中国の建築史家、建築家です。父は清朝末期の改革派の梁啓超^{きいん}です。

一体、この仏光寺はどのように発見されたのでしょうか？

これについては次のような話が残っています。1937年6月末のある夕方、梁思成とその夫人、二人の学生の四人は口バに乗り、荷物を積み、仏光寺に足を止めました。一行の目的は唐代の建築物を探ることでした。30年代当時日本の学者は、中国では唐代の木造建築を見る事は既に出来ない。建築学者が唐代の建築を研究するには、日本の奈良や京都に行かなければならないと断言しました。

確かにそれまで中国では、西洋ほど建築芸術は大切にされませんでした。誰も中国の古い建築の調査や研究をしなかったので、中国には唐代の木造建築は残っていないと思っていました。しかし、共にペンシルバニア大学で建築学を学んだ

梁思成夫婦はアメリカから帰国後、古い建築物の調査を始めました。1932年からの5年間で2,738の古い建築物を調査しました。しかし、唐代の建築物は発見されなかったのです。

ある日、梁思成は北京図書館でフランスの探検家ペリオの描いた「敦煌石窟」を見ている内に、第61窟の宋代の「五台山全図」にある「大佛光之寺」の今まで見た事の無い塔に興味を持ちました。彼は直ちに明代の鎮澄法師ちんちやうの著した「清涼山誌」を調べ、仏光寺は五台山の中心地に位置していないことがわかりました。経験によると、辺鄙な所には古建築がよく残されていると思い、山西省へ調査に行くことにしました。

山西省を訪れてから、彼らは辺鄙なところに「仏光真容禪寺」を見つけ足を止めました。梁思成は山門に入るや否や仏光寺の建築物を見て、「料きやう拱²⁾は雄大で、庇が深く突き出ている典型的な唐代の建築物だ」と叫びました。梁思成は国内にも唐代の木造建築が必ず残されているとの信念を持ち続けていたので、ここでやっと実物が検証されたと言って喜びました。

■注

- 1) 梁思成(1901 ~ 1972)：中華人民共和国の建築史家、建築家。父の梁啓超が清朝末期の戊戌の変に破れて日本へ移り住んだため東京で生まれた。横浜、神戸と転居し12歳まで日本に在住し、その後中国へ帰国した。中国の古代建築の研究と文化財保護に尽力した。江蘇省揚州にある「鑑真紀念堂」は梁思成による建築作品の一つ。 (ウィキペディアより)
- 2) 料拱(日本語表記では斗拱)：建築用語。建築物の梁や桁けらにかかってくる上部の荷重を集中して柱に伝える役目をもつ部材の総称。組物ともいう。 (コトバンクより)

国際交流員として2004年から2年間、青森県に来日した鄧仁有さん。その後帰国され、山西省太原市にある旅游学院の日本語ガイド養成コースで教鞭をとられています。鄧さんが執筆した日本語ガイド資格試験用テキストから、山西省の名所旧跡をご紹介します。